



TITLE:

表紙・『生物資源経済研究』規定
・奥付・編集後記

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・『生物資源経済研究』規定・奥付・編集後記. 生物資源経済研究 2009, 14

ISSUE DATE:

2009-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/74822>

RIGHT:

The Natural Resource Economics Review

No. 14 2009

Institutional Reforms, Economic Growth and Environmental and Economic Problems in the steppe areas of Northwestern China Jinhu SHEN (1)	
Agricultural Environmental Issues and Intra-industry Trade in the East Asia Community Concept Masaru KAGATSUME (43)	
The Machine and Tractor Station of East Germany in 1952-1960. Agricultural Mechanization and the Making of New Rural Cadres Yoshihiro ADACHI (65)	
The Incentive of Information Disclosure on Farm Management —— An Examination Based on Accounting Communications Theory —— Bunyo KAGAWA (123)	
(Note)	
Old Documents on Forestry and Forest Products in Ohara, Kyoto, Japan (2): Documents related to Kimura Sohemon, Magistrate of <i>Gonyubokuyama</i> Kozue TAGUCHI, Koji MATSUSHITA, Hideo UNO (194)	

生物資源経済研究

No. 14 2009年

制度改革、経済発展と中国草原地域の環境・経済問題 沈 金虎 (1)	
東アジア共同体構想における農業・環境問題と産業内貿易の意義 加賀爪 優 (43)	
戦後東ドイツ農村の機械トラクターステーション — 農業機械化と農村カードル形成 — 足立 芳宏 (65)	
農業経営による情報開示のインセンティブ — 会計コミュニケーション論に基づくアプローチ — 香川 文庸 (123)	
(研究ノート)	
京都大原の山林文書(二) 御入木山代官木村宗右衛門を中心として 田口 標・松下 幸司・宇野日出生 (194)	

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の『生物資源経済研究』を専攻紀要として刊行いたしました。
御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料の御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

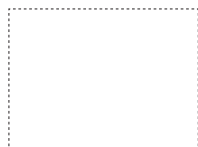
生物資源経済研究 第14号

1部

2
0
5
8
6
0
6

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻司書室 行



受 領 書

生物資源経済研究 第14号

1 部

上記刊行物受領いたしました。

平成 年 月 日

住 所

機関名

氏 名

印

『生物資源経済研究』規定

1. 投稿資格・著作権・編集要領

- 1) 単著論文の投稿資格者は、生物資源経済学専攻（以下、専攻と略記）教員、本専攻在籍中ないし在籍後5年以内の内地研究員・外国人招聘学者・外国人共同研究者、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資源経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに投稿できる。
- 2) 共著論文の第一執筆者は本専攻教員に限定するものとする。
- 3) 著作権：本誌に掲載された論文・抄録の著作権は、本専攻に属するものとする。なお執筆者自身が自らの論文を利用することは差し支えないものとする。
- 4) 原稿の採否の決定：原稿の採否は、複数査読にもとづき編集委員会が行うこととする。採用決定日をもって受理日とする。
- 5) 発行回数と別刷り：年1回発行を原則とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈し、それ以上は著者の実費負担とする。
- 6) 著者校正：著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

2. 執筆要領

- 1) 原稿種別は論文と研究ノートの2種とし、投稿者は投稿時に種別を明記する。
- 2) 原稿枚数は、図・表を含め、和文の場合は横書き400字詰め原稿用紙換算で50枚以内、英文の場合は、A4用紙にダブルスペース（28行、1行10～15単語）で30枚以内を目安とする。和文の場合は英文抄録（300単語以内）と英文題名を、英文の場合は和文抄録（800字以内）と和文題名を投稿時に添付する。原稿は完成原稿とそのハード・コピー2部を、データ・ファイルを添付の上で、編集委員長ないし副委員長に提出するものとする。
- 3) 特殊な専門用語・学術用語のほかは、原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。
- 4) 論文の節項表示は、1. (1)、1)、a のようにする。
- 5) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。
- 6) 図表は、図1、表1(Fig1. Table 1) のように示す。また図表の挿入位置については、完成原稿の右余白に朱書きで明示する。
- 7) 本文注記は各頁ごとではなく本文末尾に一括して掲載する。また引用文献は注記を原則とし下記の要領によるものとするが、各分野学会誌の様式に準じた表記も認める。
 - 1) 和文の場合
 - a. 著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年（奥付けによる）、ページ。
 - b. 執筆者名「論文名」、編著者名『書名』（シリーズ名）、出版社、出版年、ページ。
 - c. 執筆者名「論文名」、『雑誌名』巻号（年月）、ページ。
 - 2) 欧文の場合
 - a. 名頭文字・姓、書名（出版他：出版社、出版年）、p.（またはpp.）
 - b. 名頭文字・姓、「論文名」、雑誌名、巻号（月、年）、p.（またはpp.）

付 記

- (1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。
- (2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。
- (3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。
- (4) 本改正は平成17年2月1日より実施する。
- (5) 本改正は平成20年1月1日より実施する。

執筆者紹介（掲載順）

沈 金虎 京都大学農学研究科（地域環境経済学分野）
加賀爪 優 京都大学農学研究科（地域環境経済学分野）
足立 芳宏 京都大学農学研究科（比較農史学分野）
香川 文庸 京都大学農学研究科（経営情報会計学分野）
田口 標 京都大学農学研究科（農業組織経営学分野）
松下 幸司 京都大学農学研究科（森林科学専攻森林環境計画学分野）
宇野日出生 京都市歴史資料館総括主任研究員

『生物資源経済研究』第14号の編集を終えて

本年も、論文4本と研究ノート1本を掲載することができた。論文のテーマも多岐にわたっており、内容も充実したものになっている。

ところで、本号より、表紙と背表紙、裏表紙における「年」の記述の仕方を、統一することにした。

たとえば、本号は、従来どおりの記述の仕方であれば、表表紙が2008年、裏表紙が2008、背表紙が二〇〇九年三月、奥付が2009年3月31日となるところであった。これは、表表紙と裏表紙に発行年度の数字を記し、背表紙と奥付には出版した年月日を記したところから発生する、わかりにくさであった。そこで、本年度からはこれを統一し、表表紙に2009年、裏表紙に2009、背表紙も二〇〇九年三月、奥付2009年3月31日とすることによって、同じ号の中では、数字が2009に統一されることになった。

ただし、今までの方法とのずれから、表表紙と裏表紙の2008の数字が、とんでしまうことになる。欠落するのは表表紙と裏表紙の2008の数字であるので、図書館等で、背表紙で順番を並べられている分には、問題がないと思うが、ご注意いただきたい。以上、関係諸機関には、少しお手をかけますが、ご確認いただき、ご了解いただきますよう、編集委員会を代表して、お願い申し上げます。

平成21年3月5日

編集委員長 末原 達郎

『生物資源経済研究』第14号編集委員（五十音順）

足立芳宏 香川文庸（副委員長） 川村 誠 末原達郎（委員長）
武部 隆 沈 金虎 辻村英之 中田義昭

生物資源経済研究 第14号

2009年3月20日 印刷

2009年3月31日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻
生物資源経済研究 編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 創文堂印刷(株)